

# フォスタリング機関の評価のあり方に関する調査研究

---

早稲田大学社会的養育研究所  
西郷 民紗

# はじめに

---

早稲田大学社会的養育研究所では、2020年度より日本財団の助成を受けて「フォスタリング機関の評価のあり方に関する調査研究」を実施しています。

発表にあたり、2022年度調査研究報告書は、最終案の策定段階のため、現時点での報告書（案）のご紹介となりますことをご容赦ください。

最新の報告書は、当研究所のWEBサイトで4月頃に公開予定です。  
(2020年度報告書・2021年度報告書は公開済み。)

# 今日お話しすること

---

1. 調査研究実施の経緯
2. 評価指針（案）の概要
3. 評価基準の具体例（一部）
4. 2022年度の調査を通じての気づき
5. 研究・実践・施策を連動させるために必要なこと

# 1. 調査研究実施の経緯

## 2017年 「社会的養育ビジョン」

### 7. 子どもの権利を守る評価制度の在り方

評価対象施設は、フォスタリング業務を行う機関（フォスタリング機関）を含める必要がある

## 2018年 「フォスタリング機関(里親養育包括支援機関)及びその業務に関するガイドライン」

○…民間フォスタリング機関による業務の実施状況をモニタリングし、評価するとともに、必要に応じ、適切な指導を行うことが必要である。

○…フォスタリング業務の評価に当たっては、児童相談所、民間フォスタリング機関、里親の各関係当事者に加え、より多角的な評価を行う観点から、例えば里親委託等推進委員会を活用するなど、第三者の立場で評価を行うことができる学識経験者を含めた組織体を構成して行うことが望ましい。

## 2022年 「令和3年度 社会保障審議会児童部会社会的養育専門委員会 報告書」

○…里親支援機関(フォスタリング機関)を児童福祉施設として位置づける。これに伴い、里親支援機関(フォスタリング機関)の第三者評価が確実に成されることとする。

# 1. 調査研究実施の経緯

当研究所では、2020年度より、子どもの権利擁護を図り、養育と支援の質を向上させることを目的として調査研究を実施。

2020年度

英国の評価機関**オフステッド (OfSTED)** 及び、日本の**社会的養育にかかわる評価制度**（社会的養護関係施設、児童相談所・一時保護、民間あっせん機関）や先行研究を調査  
※オフステッドの調査は、山口敬子先生(京都府立大学)が実施

2021年度

2020年度調査を参考に、フォスタリング機関ガイドライン、里親委託ガイドライン、里親及びFH養育指針、参考文献等をもとにフォスタリング機関の**評価項目 (試案)**を作成

2022年度

ご協力頂ける**民間機関**にて**試行調査 (1箇所)**を実施し、調査結果をもとに検討委員会で、**評価方法の改善案**を検討、当研究所版の**フォスタリング機関の評価指針(案)**を策定。  
※試行調査の評価調査チームは、実務経験者及び研究者(検討委員)で構成

# 1. 調査研究実施の経緯

## 試行調査のプロセス



※一部、時期などが変更になったものがあります。

## 2. 評価指針(案)の概要

### 目的

子どもの最善の利益の実現のために、里親養育のもとで育つ子どもの権利擁護を図り、養育と支援の質を向上させることを目的とする。

### 対象

一連のフォスタリング業務を包括的に実施する機関（フォスタリング機関）を対象とする。今回は、民間フォスタリング機関を対象として、検討を行ったが、児童相談所がフォスタリング機関となる場合も準用できることを目指す。

### 基本的な考え方

➤ 評価の基本的原則：「子どもを中心として、サービスを捉えること」

評価が大人の視点に立ちやすいことや、支援者とサービス利用者の中に認識のずれが生じている可能性があることから、実際にサービスを受けている子どもを中心として、これまで以上に、子どもの視点を大切にしてサービスの質を捉える。

➤ 評価の焦点：「子どもの健やかな育ちに対する影響を評価すること」

実務上の手続きより、子どもの健やかな育ちに対する養育と支援の影響に焦点を当てることを優先する。子どもたちが、健やかな子ども期を過ごしているか、日常的にどのような生活や遊びの経験をしているか等を重視。

## 2. 評価指針(案)の概要

### 評価基準の構成

フォスタリング機関ガイドライン等を参考に、評価が必要だと考えられる項目を5部構成 全44項目 (予定) の評価基準として整理した。

#### I. フォスタリング機関の運営・体制

リーダーシップ、人材育成、職場環境、情報管理、法令遵守等

#### II. 都道府県(児童相談所)とのパートナーシップ

支援の連続性、協働関係、協働のプロセス、協働の資源等

#### III. フォスタリング業務の効果的な実施

里親のリクルート及びアセスメント、里親研修、マッチング等

#### IV. チーム養育の充実

里親とフォスタリング機関の関係性、チーム養育、支援の質等

#### V. 里親養育のもとで育つ子どもの経験

子どもの権利擁護と最善の利益の優先、子どもの基本的な生活等



## 2. 評価指針(案)の概要

### 判定基準

- S 特に優れた取組みが実施されている（特に優れている/他と比べて際立った状態）
- A 適切に実施されている（良い/十分な状態）
- B やや適切さにかける（良いものにするには改善が必要な状態）
- C 適切ではない、または実施されていない（改善が期待される/不十分な状態）

### 結果の活用

- 評価に基づく改善活動は、フォスタリング機関を始めとして、養育チームや児相等、**関係機関が対話し協働**して行う。
- 今後の取組みについてまとめた**子ども向けレポート**も作成する。子ども向けレポートは、できるだけ平易な言葉を用いて要点を伝える。

Ⅲ フォスタリング業務の効果的な実施	
ⅰ 里親のリクルート及びアセスメント	
11	<p><b>里親リクルートのための現状分析と戦略立案</b></p> <p><b>里親リクルートの課題などについて分析を行い、戦略的なアプローチを実行しているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 里親希望者の傾向や里親を希望する理由、認知方法、問い合わせ件数等を情報収集している</li> <li><input type="checkbox"/> 収集した情報をもとに、里親をリクルートするための現状分析を行っている</li> <li><input type="checkbox"/> ターゲットの特徴に合わせた戦略的な広報アプローチを実行している</li> </ul> <p>（具体的な取組例は、ポスターの掲示、チラシ・リーフレットの配布、ポスティング、車内広告の実施、テレビ・ラジオにおける番組や広告の放映、インターネット（ホームページ、SNSなど）を活用した情報発信、市政だより及び回覧板の活用、雑誌・フリーペーパーへの記事掲載、街の身近な場所で気軽に説明を聞くことができる場の設定、里親または里親経験者からの口コミなどである。特に、里親との出会いや口コミは効果的とされる。）</p>
12	<p><b>里親リクルートのための効果的な情報発信</b></p> <p><b>問い合わせ件数や研修参加数、登録件数などの目標を立て、効果的な情報発信と見直しを行っているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 問い合わせ件数や研修参加数、登録件数などの具体的な目標を立てている</li> <li><input type="checkbox"/> 取組みの効果を測定し、進捗の確認や見直しを行っている</li> <li><input type="checkbox"/> 里親制度についての情報発信が問い合わせの増加や里親登録につながっている</li> </ul>
13	<p><b>問い合わせへの対応とガイダンス</b></p> <p><b>問い合わせに迅速に対応し、里親制度の意義やサポート体制などを丁寧にガイダンスしているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 気軽に問い合わせできるようにしている</li> <li><input type="checkbox"/> 関心を持っていただいた市民からの問い合わせに迅速に対応している</li> <li><input type="checkbox"/> 養育里親への経済的なサポートや支援体制など不安や負担感を軽減できるような説明をしている</li> <li><input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズや行動特性、里親の役割などを丁寧にガイダンスしている</li> <li><input type="checkbox"/> 実子がいる家庭に対しては、実子との関係などの不安を解消する工夫をしている</li> </ul>

Ⅳ チーム養育の充実	
i 里親とフォスタリング機関の関係性及びチーム養育	
19	<p><b>里親とフォスタリング機関の関係性</b></p> <p><b>里親とフォスタリング機関は十分なコミュニケーションを図り、信頼関係が築かれているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関は十分なコミュニケーションをとっている</li> <li><input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関は双方向の信頼関係を構築している</li> <li><input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、里親が日常的に相談しやすい環境を作るようにしている</li> <li><input type="checkbox"/> 里親は、養育上の課題や難しさ感じた場合には、早い段階でフォスタリング機関に相談し、助言に耳を傾けている</li> </ul>
20	<p><b>チーム養育と支援ネットワーク</b></p> <p><b>里親とフォスタリング機関、児童相談所はチーム養育の意識を持ち、子どもに重層的な支援を行っているか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関、児童相談所は、チーム養育を協働して行うという意識を持っている</li> <li><input type="checkbox"/> 養育チームは、ミーティングなどを通じて密に連携し、信頼関係を構築している</li> <li><input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関は、養育で必要となる社会資源の利用について話し合っている</li> <li><input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、子どものニーズに応じて、里親養育を理解し支援する地域ネットワーク（「応援チーム」）を構築するよう努めている</li> </ul> <p>（応援チーム構成の機関例：市区町村（主に家庭福祉主管課や母子）、保健センター、乳児院や児童養護施設（里親支援専門相談員）等、教育委員会、学校、保育所・幼稚園・認定こども園等、医療機関、児童家庭支援センター、里親会、民生委員、児童委員等）</p>

<b>Ⅴ 里親養育のもとで育つ子どもの経験</b>
<b>i 子どもの権利擁護と最善の利益の優先</b>
<b>29 子どもの権利についての理解促進</b>
<p>子どもに対して、権利についてわかりやすく説明し支援しているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 子どもの権利ノートを配布し、子どもの権利についてわかりやすく伝えている</li> <li><input type="checkbox"/> 里親は、子どもの権利を理解し、日常生活の中で子どもの権利をサポートしている</li> <li><input type="checkbox"/> 里親と支援機関は、子どもの年齢や発達に応じた目標を立て、説明方法を工夫している</li> </ul>
<b>30 子どもへの説明と意見聴取</b>
<p>援助過程において、子どもが理解できるような説明と意見聴取が適切に行われているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 援助方針や見通しについて、子どもにわかりやすく説明している</li> <li><input type="checkbox"/> 子どもに対して面接の目的を明らかにし、子どもが話しやすい環境で意見を聴いている</li> <li><input type="checkbox"/> 定期的に子どもの意向を把握し、子どもの意見が支援内容等に反映されている</li> </ul>
<b>ii 子どもの基本的な生活</b>
<b>34 子どものウェルビーイング</b>
<p>子どもは、日常の中で健やかな成長・発達が図られるような生活を送っているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 子どもは、日常的に十分な衣食住の生活を送れるよう養育されている</li> <li><input type="checkbox"/> 子どもは、心身ともに健康的な生活ができるよう健康を管理され、必要な医療を受けられるようになっている</li> <li><input type="checkbox"/> 子どもは、基本的な生活習慣（起床・就寝・遊び・勉強・家事）を身につけられるよう支援されている</li> <li><input type="checkbox"/> 子どもは、余暇に運動したり芸術・文化に触れたりする機会を提供されている</li> <li><input type="checkbox"/> 子どもは、年に数回は文化的活動（映画・美術館・博物館等）を行う機会を提供されている</li> <li><input type="checkbox"/> 学習意欲を十分に引き出せるよう学習環境が整えられている</li> <li><input type="checkbox"/> 最低限必要な家庭の決まりは、子どもに説明し、意見を聞いた上で、合意するようにしている</li> </ul>

## 4. 2022年度調査を通じての気づき

前提として、調査内容や評価基準・調査対象の検討等、見直しや再検討が必要になったこと、また、評価機関・評価者をどうするかなど、検討を続けるべきことは様々あった。

### 評価を希望する理由（公募時）

- ・自分たちの方法がこれで良いのか、他により良いやり方はないか知りたい
- ・自分たちの支援の良し悪しを知ることができないか、他機関と比較してどうか
- ・自治体内での仕組み上の課題について助言が欲しい
- ・子どもへの支援をもっと改善したい

### 第三者評価の意義

- ・機関の内部では見えていなかったことへの気づきにつながる
- ・別の考え方があるということを知って、業務を見直すきっかけになる
- ・疑問に感じていたことを指摘してもらうことで改善の後ろ盾になり得る
- ・制度的な問題点の指摘や改善のための助言・情報提供を得られる

### インタビュー協力について子どもたちの反応

子どもたちからは、里親だけでなく子どもにも意見を聞くこと、意見を交換し合える機会になること、子どもの意見が活かされることが良い等、総じて好意的な感想だった。

専門性に依拠した内発的な動機による評価と、改善に向けて試行錯誤できることが重要

## 5. 研究・実践・施策を連動させるために必要なこと

- ✓ フォスタリング業務ガイドラインの更なる充実 – 最新の研究・実践に基づいたものへ
- ✓ 職員の方々の研修・交流・学び合いの場の強化 – 実践知や研究知見の共有、問い
- ✓ 質の向上のための第三者評価の活用（利用） – 初期は特に助言機能が重要

「子どものために始めた取り組みが、  
子どもにとってどのような結果をもたらしているのか？」

権利擁護システムの一つとしての第三者評価

- ①利用者視点で見たときに、**質の改善**に寄与したか
- ②機関共通の課題があるときに、**制度の見直し**につながったか

将来的に、フォスタリング機関評価の仕組みそのものの“**評価**”と見直しも必要

ご静聴いただき、  
誠にありがとうございました。

本調査にご協力くださった  
すべての皆様に心より御礼申し上げます。

早稲田大学社会的養育研究所の研究報告書は、  
下記URLまたはQRコードからご覧いただけます。

<https://waseda-ricsc.jp/report/>



早稲田大学社会的養育研究所  
西郷 民紗  
saigo@aoni.waseda.jp